

公益財団法人日本文学振興会

平成26年度事業報告書

1. 平成26年4月3日(木)午後3時より、日本外国特派員協会にて第45回大宅壮一ノンフィクション賞の選考委員会を開き、受賞者および受賞作品を下記の通り決定した。

書籍部門

佐々木実「市場と権力 『改革』に憑かれた経済学者の肖像」(講談社刊)

雑誌部門

神山典士と週刊文春取材班

「全聾の作曲家はペテン師だった! ゴーストライター懺悔実名告白」(週刊文春2014年2月13日号)

その贈呈式および披露宴は6月20日(金)午後6時より日本外国特派員協会にて開催、受賞者に正賞100万円を贈呈した。

2. 平成26年4月24日(木)午後5時より、東京會館パールルームにて第21回松本清張賞の選考委員会を開き、受賞者および受賞作品を下記の通り決定した。

未須本有生「推定脅威」

その贈呈式および披露宴は6月26日(金)午後6時より東京會館ゴールドルームにて開催、受賞者に正賞時計、副賞500万円を贈呈した。

3. 平成26年7月17日(木)午後5時より、築地「新喜楽」にて第151回芥川龍之介賞および直木三十五賞の選考委員会を開き、受賞者および受賞作品を下記の通り決定した。

芥川賞 柴崎友香「春の庭」(文學界6月号)

直木賞 黒川博行「破門」(KADOKAWA刊)

その贈呈式および披露宴は8月22日(金)午後6時より帝国ホテル孔雀の間にて開催、受賞者に正賞時計、副賞100万円を贈呈した。

4. 平成26年10月8日(水)午後6時より、築地「新喜楽」にて第61回菊池寛賞選考顧問会を開き、下記の五件の受賞を決定した。

① 阿川佐和子

1993年に始まった週刊文春の連載対談「阿川佐和子のこの人に会いたい」が1000回を達成。出版・放送など幅広い分野で読者、視聴者に支持されてきた

② 白石加代子

早稲田小劇場での初舞台から約半世紀にわたり活躍。怪談会を模した朗読劇「百物語」は二十二年間続け、本年九十九話で幕を下した。

③ 毎日新聞特別報道グループ取材班「老いてさまよう」

NHKスペシャル「認知症行方不明者一万人～知られざる徘徊の実態～」

認知症の身元不明者という極めて今日的なテーマについて、それぞれ新聞とテレビにおいて報道し、家族との再会が実現した。

④ タモリ

三十二年にわたって生放送の司会を務めた「笑っていいとも!」をはじめ、独自の視点をもつテレビ番組の「顔」として、日本の笑いを革新した

⑤ 若田光一

2009年に国際宇宙ステーション（ISS）長期滞在ミッションを達成、ISS コマンダーの重責を果たすなど、日本人初の快挙を成し遂げた

その贈呈式および披露宴は12月5日（金）午後5時よりホテルオークラ本館「曙の間」および「平安の間」にて開催、受賞者に正賞時計、副賞100万円を贈呈した。

5. 平成27年1月15日（水）午後5時より、築地「新喜楽」にて第152回芥川龍之介賞および直木三十五賞の選考委員会を開き、受賞者および受賞作品を下記の通り決定した。

芥川賞 小野正嗣「九年前の祈り」（群像9月号）

直木賞 西加奈子「サラバ!」（小学館刊）

その贈呈式および披露宴は平成27年2月19日（木）午後6時より帝国ホテル孔雀の間にて開催、受賞者に正賞時計、副賞100万円を贈呈した。